

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コース特別講義

「変革や改善をおそれず学校改革に挑む校長とそれを支える行政」

文部科学省現役官僚と県教育委員会課長にお越しいただきました

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コースでは、岐阜県教育委員会から派遣される現職教員を対象に、学校経営専門職のための大学院教育を行っています。その一環として、教育行政のプロをお招きし、特別講義を行っています。「教育政策の理論と実践」の2コマとして、令和7年12月1日（月）に岐阜市立長良東小学校校長の中村有希先生から「文科省現役官僚校長の学校改革に挑む思いと実践に迫る」をテーマに、令和8年1月19日（月）には岐阜県教育委員会義務教育課課長の吉村嘉文氏から「人事と指導を一括して担う県教委トップの思いに迫る」をテーマにご講義いただきました。

中村先生は、文部科学省から岐阜県教育委員会に3年間出向され、昨年度から岐阜市内の小学校で校長を務められています。毎年、高度な見識をもとに、管理職の役割を、行政学、経営学、教育学、心理学を統合し、わかりやすくお話しくたします。今回も、例年の質の高い講義内容を更にアップデートされ、管理職の職務を踏まえた経営信念を説明されたうえで、勤務校を例に、学校で当たり前とされていることに疑

間を持ち、育成すべき人材を育てる教育の具体の紹介をされました。

受講した院生からは、「変革や改善をおそれず、常に“なぜ”を問うことを自分の教訓としたい」、「“バランス”という言葉にあるように、柔軟な考え方も管理職には必要な資質である」「“環境づくり”の視点はとても大切だと改めて感じた」等の感想がありました。受講した院生にとって、学校に新しい本質の風を吹き込むことができるためのコンピテンシーを高めることができた貴重な内容であり、学校に戻った時に重点を置いて取り組むべき視点（校長への具申や、教頭自身の取り組み）も明確になった、とても有意義な講義となりました。



吉村氏は、岐阜県教育委員会や市教育委員会での豊富な勤務経験に加え、各務原市内の小学校における校長経験もお持ちです。ご自身の校長時代の経験や、教育行政職のトップリーダーとしての信念と学校現場に軸足を置いた施策構築の考え方等について、熱い思いを語られながら院生に問いを投げかけられたり、過去の教職大学院履修

経験を活かして本学の管理職養成コースの院生に学びの深めへのエールもいただきました。受講した院生からは、「所属職員を監督するためには、職員の立場に立って共感的に理解する必要がある」、「両極端の価値をまず理解した上で自身の判断を決め出す、というバランス感覚が大切であることが分かった」等の感想があり、今後の管理職のあり方について確かなイメージと意欲を膨らませながら学ぶことができた有意義な講義となりました。

